

下野市立細谷小学校

1 学校課題

自ら学び、考え、課題解決できる児童の育成
～学びを深めるための言語活動の充実～

2 研究計画

(1) 主題設定の理由

昨年度までの3年間、学力向上推進事業の取組を中核に据え授業改善を図り、学びの質を高めていくことを目指してきた。本研究を通して、確かな学力の定着・向上を目指し、身に付けさせたい資質・能力、働かせたい見方・考え方をもとに、児童が主体的に課題解決できる授業を目指し、授業改善に取り組んできた。特に、主眼に据えたことは、授業の導入を大切にし、学習のめあてを児童と教師で対話しながら設定、授業の最後には、児童の振り返りの視点を定め、学びを自覚させることである。

これまでの研究を通し、少しずつ教師の授業力向上が図られ、児童の思いを引き出す工夫が見られるようになった。しかし、児童の難しい問題に粘り強く取り組む力、条件や場面に則した文章で表現する力、児童相互の多様な考えを出し合い思考を深めていく力を向上させることは十分とは言えない。

そこで、本年度は昨年度までの研究を継続させ、児童の主体性をさらに伸ばしながら、確かな学力の定着・向上を目指し、児童の学びをより深いものとしていくよう言語活動を充実させていきたい。また、授業の基盤となる学びに向かう集団づくりについても研究を進め、学業指導に力を入れ、学習の約束を基本とした学習の規律や家庭学習の取り組み方、あきらめずに取り組もうとする心情の醸成などについて教師がどのように関わっていくことが有効であるか、明らかにしていきたい。

(2) 研究の仮説

- ① 言語活動を充実することで、課題に対する児童の多様な発言が増え、見方や考え方が豊かになり、自ら学び考え課題解決できる力を伸ばすことができるであろう。
- ② 学習規律を身に付けたりあきらめない心情を養ったりすることで、子どもたちの学びに向かう姿勢をさらに高めることにより、児童の学びをより深めることができるであろう。

3 研究内容

(1) 主体的な学びのある授業づくり

① 児童相互の思考を深めさせるための言語活動

国語の授業を軸にし、どの場面においてどのような言語活動を取り入れれば、児童の多様な思考をさらに深めさせることができるかを検討し、授業づくりに生かした。

② 条件・相手・場面に則した表現力の育成

それぞれの教科で、発表や話合いの話型、説明の型などを適宜示すことで、自分の考えを表現できるよう支援した。また、書く活動では、キーワードや文末表現、重要語句などを提示し、表現力を高められるようにした。

③ 情報活用能力の育成

インターネットだけに頼らず、辞書や事典、図鑑などからも必要な情報を探す活動を多く取り入れた。また、朝の読書の時間をしっかりと確保し、多くの書物に触れさせることで語彙力の向上を図った。

(2) 学びに向かう集団づくり



① 学びに向かう姿勢を養う

話し方名人・聞き方名人（話し方、聞き方のめあて）を意識させることで、自分の考えとの相違の比較・意見の総括がスムーズに進められる力を身に付けさせた。また、各学年の実態に応じて家庭学習に当たり前に取り組む意欲を高める工夫を心掛けた。

② 粘り強く取り組み、あきらめない心情を養う

興味・関心のある教材を利用したり、授業が終わってもさらに取り組みたい内容を扱ったりするなどの工夫をすることで、児童が自ら探求したいと思う動機付けを図った。学校行事のめあてづくりや体育がんばりカードの活用などで、難しいこと、苦手なことにも粘り強く取り組むよさを実感させた。

(3) 研究授業を通した主題への取組

月日	学年	単元名	課題追究のための手立て等
7/8	1年	国語「大きなかぶ」 	<ul style="list-style-type: none"> ・興味関心を高める教具を準備し、めあてを設定することで、主体的な学びや意欲につながった。 ・「どちらの考えに近いか」「どうしてそう思うか」という発問から個々の思考を深めさせるような言語活動を取り入れることを通して、児童は自分の考えを選択して、理由を付けて発表したり役割演技したりしながら、互いに意見を聞きながら学び合うことができた。
12/5	4年	国語「世界にほこる和紙」 「伝統工芸のよさを伝えよう」 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルリーフレットの作成を通して言語活動に取り組んだ。タブレットのアプリを利用したことで、紙に文章を書くことに抵抗のある児童も意欲的に取り組むことができた。 ・視点に沿った気付きを交流し「推敲」を行うことは少し難しい面もあったが、友達の記事を読むことで、自分の文章はどうだったか振り返ることができたり、友達との交流により学びが深まったりした。

4 本年度の成果と課題

(1) 研究の成果

- ① 研究授業で行った音読劇やデジタルリーフレット作りのように、児童がやってみたい、できそうだと思うような言語活動を設定することが、児童の思考を深めさせる上で、効果的であるということが分かった。
- ② キーワードを提示したり、重要語句や新出語句に着目させたりする中で、自分の考えを発表したりノートに書いたりする活動にスムーズに取り組める児童が増えた。また、発表や話合いの話型、説明の型を提示し、繰り返し指導することで発表のスキルが身に付き、深まりのある学び合いへとつながった。



- ③ 読み聞かせやブックトーク、必読図書の設定などの工夫により、読書活動への意欲の高まりがみられた。そのことで、表現力や思考力、語彙力の向上を図ることもできた。

(2) 研究の課題

- ① 国語科において、言語活動を設定したもの、課題解決できるように思考を深める活動とまでは至らなかった。児童の多様な思考を深め、知識・技能を適切に組み合わせ、それらを活用しながら問題を解決していくために必要となる思考力の育成が必要である。



- ② 学習の仕方や流れを理解することで、学びに向かう姿勢が、意欲的になっている教科もある。さらに苦手な教科や難しい課題に対しても自ら学ぼうとする意欲を高められるよう教師の支援のあり方について研修していきたい。